



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 174
December
2007

トピックス

関係機関との防災協力推進

インドネシア津波被害児童向け学校防災教育プログラムの実施

アジア最新災害情報

バングラデシュ・サイクロン

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 ひと未来館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.or.jp
http://www.adrc.or.jp

© ADRC 2007

●関係機関との防災協力推進

インドネシア津波被害児童向け学校防災教育プログラムの実施

2005年度から2007年度の3年間に渡る文部科学省からの委託事業として、スマトラ型巨大地震に伴う災害の軽減策について我が国の地震・津波・防災関係者が連携して提言することを目的とし、関係大学、研究機関等がそれぞれのテーマ毎に調査研究を行っています。

アジア防災センター（ADRC）では、「各国の実情に応じた自助・共助・公助の減災意識の向上対策の検討と推進」をテーマとして、スマトラ島沖地震に伴うインド洋津波による被害が甚大であったインドネシア共和国ナングロ・アチェ・ダルサラム州バンダ・アチェにおいて調査研究を行っています。2005年度の住民、児童等を対象としたアンケート調査においては、災害の経験と教訓を後世に伝え住民の防災意識向上を図るためには、学校での防災教育の実施が最も効果的であるとの結果を得ました。この結果に基づき、2006年度と2007年度においては、バンダアチェの幼稚園から高等学校まで5段階の学校を対象（パイロット校）として、シアクアラ大学、Arbeiter-Samariter-Bund Deutschland e.V. (ASB)、パイロット校、教育省等の協力を得て、学校防災教育プログラムの開発を進めてきました。この度、教員用の学校防災教育指導マニュアル案がまとまり、2007年10月20日に関係者が参加して同マニュアルの内容についての検討する会議が開催されました。田中修平主任研究員と池田誠研究員（当時）が出席してこれまでの取組を総括しましたので、2006年度以降の主な取組について報告します。

1. 防災教育教授法に関するワークショップの実施

防災教育のパイロット授業を担当する教員を対象として、自然災害に関する基礎知識及びパイロット授業指導案作成を含む防災教育の教授法の習得を目的とする2日間のワークショップを開催しました。講義では、「インドネシアの自然災害」、「インドネシアの防災システム」に引き続き、日本の防災教育として心の教育を取り入れている兵庫県の「兵庫の防災教育」を事例として紹介しました。

バンダ・アチェでの防災教育研修は今回が初めて実施されたものであり、参加した教員はパイロット授業指導案の作成に非常に熱心に取組んでいました。課題としては、災害時の避難に関する知識の



講義「兵庫の防災教育」

(続き)

充実があげられました。

- ・日時：2007年1月26日～27日
- ・参加者：教員10名（幼稚園、小学校低・高学年、中学校、高等学校の5段階×各2名）
講師6名（ADRC、シアクアラ大学、ASB）
オブザーバー20名（研究者、教員、インドネシア赤十字社、NGO、大学生）

2. パイロット授業の実施

ワークショップで作成したパイロット授業指導案を基に、担当教員は大学生ボランティアの協力を得て、各レベルでのパイロット授業及び避難訓練を実施しました。参加生徒数は合計約200名にのぼり、防災知識習得のため積極的に授業に参加しており、教員の教授能力の更なる向上とともに各レベルに対応できる防災教育指導マニュアルの開発が求められました。



パイロット授業(小学校低学年)



パイロット授業(高等学校)

- ・日時：2007年2月27日～3月3日
- ・参加生徒数：幼稚園、小学校低・高学年、中学校、高等学校 計約200名

3. 防災教育知識・手法に関するセミナーの実施

パイロット授業等の結果を踏まえ、教員や教育関係者を対象とした防災教育の知識や手法に関するセミナーを開催し、教育現場における防災教育能力の更なる向上を図るとともに作成段階の学校防災指導教育マニュアルの内容について検討を行いました。

- ・日時：2007年7月28日
- ・参加者：教員50名（パイロット教員10名を含む）
講師・オブザーバー19名（ADRC、シアクアラ大学、ASB、教育省、大学生）



防災教育知識・手法に関するセミナー

4. 学校防災指導教育マニュアル検討会議の開催

これまでの取組を踏まえ作成した学校防災指導教育マニュアルの内容について、関係者が一堂に会して検討を行いました。パイロット教員からは具体的な避難方法解説の充実を求める意見などがあり、ADRCは、多くの教員が防災教育授業を行えるように、各レベルの授業実施内

(続き)

容を想定した具体的なタイムテーブルを追加することを提案しました。

最後に田中修平主任研究員がこれまでの取組の総括として、『一人一人が災害への備えの大切さを理解し、人と人とが支え合う地域社会をつくっていくことが安全・安心を支える基本であり、そうした「自助」「共助」の考え方を身に付け、自ら進んで行動する「災害に強い社会」の担い手を育成することが防災教育の使命です。今回作成する学校防災指導教育マニュアルによって防災の術を身に着けたアチェの子供達が、将来、アジアの防災の取組に貢献することを期待します』と述べ、会議を締めくくりました。

今回の会議等の結果をもとに同マニュアルの改稿を行い、2007年度末にはバンダアチェの実情に応じた学校防災指導教育マニュアルとして学校に頒布される予定です。

- ・日時：2007年10月20日
- ・参加者：パイロット教員10名
講師・オブザーバー7名（ADRC、シアクアラ大学）



学校防災指導教育マニュアル検討会議

【お知らせ】

「スマトラ型巨大地震に伴う災害の軽減策」の調査研究の成果を共有する国際シンポジウムが、2008年1月22日からタイ国プーケットにおいて開催されます。詳しい内容は、ウェブサイト (<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/sumatra/index-e.html>) でご確認ください。

●アジア最新災害情報
バングラデシュ・サイクロン

2007年11月15日、バングラデシュに上陸したサイクロン・シドル（カテゴリー4）は、同国南部から中央部にかけて広範囲に深刻な被害をもたらしました（GLIDE: TC-2007-000208-BGD）。2007年11月26日付国連人道問題調整事務所レポートNo.10によると、死者3,243名、行方不明者880名、負傷者34,708名で、被災者は700万人超となっています。また全壊家屋365,772棟、その他被災家屋875,710棟に上る他、道路、公共機関、学校等にも大きな被害が生じています。

問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.or.jp までEメールをお寄せください。